

福山城築城400年記念

福山名所コンサート

ふくやま などころ



第8回 福山藩北部

会場：山野中学校 福山市山野

2021年4月10日（土） 13：30～15：00

お話「備後備中における水野勝成」

世良基正（山野民俗資料保存会会長）

能囃子コンサート

【番組】

居囃子「福山」シテ 大島衣恵
笛 八木原周平
小鼓 久田陽春子
大鼓 森山泰幸

仕舞「福山」シテ 大島政允
地謡 大島衣恵

能楽器紹介 / 素囃子「鞆鼓」
笛 八木原周平
小鼓 久田陽春子
大鼓 森山泰幸

舞囃子「八島」シテ 大島衣恵
笛 八木原周平
小鼓 久田陽春子
大鼓 森山泰幸
地謡 大島政允

主催／喜多流大島能楽堂 TEL 084-923-2633 <http://www.noh-oshima.com>

共催／福山城築城400年記念事業実行委員会

後援／福山文化連盟 福山喜多会

備後備中における水野勝成

——時安・山野・成羽そして刈谷へ——

【時安で】 1595（文禄4）年、勝成は神石郡時安の吉岡家を訪ねる。吉岡家10代正廣の代という。吉岡家は楠木正成の子孫で、正成の曾孫正世が応永年間（1394～1427）に時安の登武丸に住んだのが始まりという。

ここで勝成は、当主や家人たちと狩猟を楽しんでいたということである。ある日、炉辺で勝成が「幸いにも一城の主となり、築城することがあるときは記念のために用材を一本もらいたい。」と、話せば、主は「必ず期待に添いましょう。」と、二人は戯れ語り合ったという。

その後、時を得て、勝成が福山人封、築城に際し、早速吉岡は城の心柱（棟木ともいう）として翌松の大木を贈り、炉辺談に応えたという。



時安の屋号亥の平吉岡邸



吉岡家の棟瓦にある家紋

【山野で】 時安吉岡家を出た勝成は、隣村山野村世良家に立ち寄る。

世良氏永代記録に

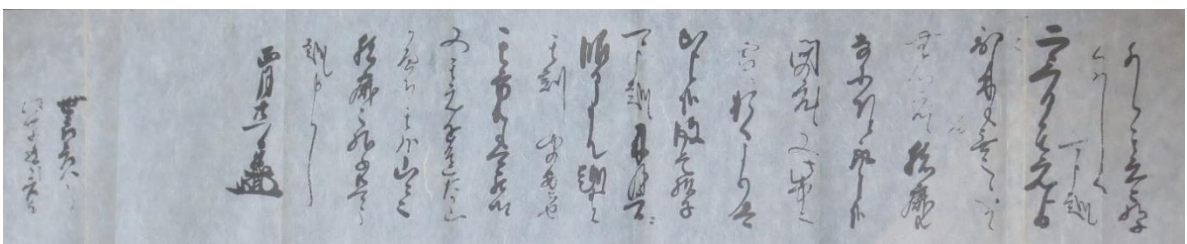
「(前略) 世良彦八と申す者の代に水野日向守勝成公様子ありて三州より浪人ニ而中国筋に参られ、山野村にご逗留中の間、昼夜付き添い居り候処 (後略)」

とある。世良彦八とは世良彦八勝光を言い、勝光代とあるが、おそらく1596（慶長1）年頃と思われる。

当時世良氏は山野の池尻の瀬戸屋敷に住んでいた。ここで日夜警護に勤めながら、前の川で鮎を取ったり、近くの山でイノシシやシカを捕ったりと、親しく狩猟に興じていたようである。

勝成はよほど山野での狩猟が気に入っていたものと思え、福山藩主になってからも狩猟の様子を尋ねている。

勝成の手紙に



尚々其元の様子くわしく可申越候 二三日其元より一々到来も無之いかが心元無候 猪鹿共何程取候や
聞度候 又此の中之雪におくよりし出で候や 彼是様子可申越候 来月二日 服部まで赴き 其刻聞
きあわせ 其方共も可罷越候 又其元近辺田ノ山かべら其外山々の猪鹿の様子共可申越候

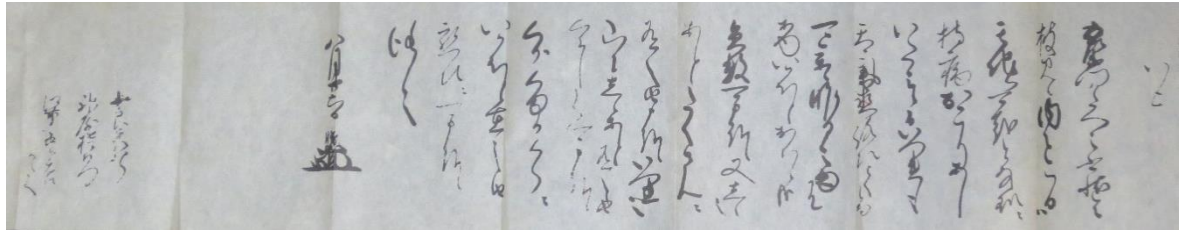
かしこ

正月廿一日 勝成 花押

世良彦八良

江草五郎吉 どのへ

またもう一通に



以上

五左衛門方への書状被見候 内々今日ハ其地へ可越存候処持病起りあしいたみ候ていづれ天気直り路比
よく而可参候 昨日の雨にてあゆいか程取り候や 員数可申越候 又しとあとたくさんに有之候由申越
候 いづれの山々にしとあと有之候や くわしく可申越候 くがくまくらにいか程有之候や 懇に可申
越候

謹厳

八月廿六日 勝成 花押

世良彦八良

神屋権右衛門

江草五郎吉 どのへ

またある時、勝成が山野に獵に来て、急に金子が入用になことがあって、当時里正をしていた
江草五郎吉に「金を貸せ」というと、江草は「ご年貢がございます。受け取り書を賜りますれ
ばお渡ししましょう。」という、勝成は「よしよし心得ておる。」といって、懐中よりチリ紙
を取り出しして、書き入れました。その書は

一、金二百両也

右者お年貢金之内慥かに受取者也

月 日

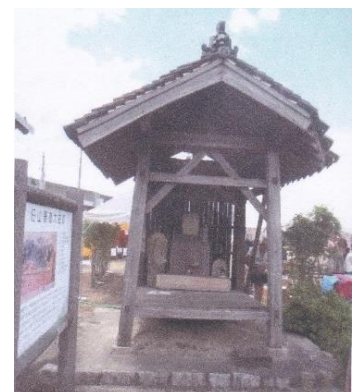
勝成押印

江草大馬鹿者へ

(これは余談で全く推測であるが、)

山野から成羽に向かう時、井原あたりで少々時を過ごしたの
であろうか、井原市出部に勝成が若い時、この地方を流浪し、
雨宿りしたという「でんぐら堂」というのがある。

井原の岸加四郎著「井原の辻堂」の中で「～このでんぐら
堂で雨宿りし、乾かしていた米粒が雨に打たれてでんぐらでん
ぐら飛び跳ねるのを眺めて喜んだという。」とある。



井原出部大曲にある「でんぐら堂」

【成羽で】 山野を出た勝成は、成羽の三村親成のもとに身を寄せる。名を乗之助と変名し、三村氏より18石の知行を受けていたという。

勝成は、そこで三村家に住んでいたお登久との間に一子を儲ける。これが後の二代勝俊である。



成羽三村家の菩提寺 源樹寺



源樹寺にある親成の位牌

ちなみにお登久は藤井皓玄の第四子好恒の子、すなわち皓玄の孫娘である。好恒は皓玄が神辺城合戦に敗れた時、10歳そこそこの子どもであったことと、藤井氏を絶やさないために成羽城主三村親成に託した。そこで大きくなった好恒は小坂信濃守利直と名乗っていた。

1598（慶長3）年、秀吉の死後家康に呼び戻され、家康の仲介で父と和解する。父忠重が池鯉鮒にて殺されるや、勝成は相続し、刈谷3万石の城主となる。

1615（元和元）年、大和郡山城に、さらに1619（元和5）年には西国鎮護の大任を負い、10万石で備後福山城主となる。

【恩義に報いた勝成】 情に篤く、義理堅い、自分の受けた恩には必ず報いた勝成である。

①吉岡家について

勝成が福山城主になってから、往年の恩義を謝するため、吉岡家を訪ね、主と獵を楽しんだ後、種子島銃を贈った。「若竹の銃」として吉岡家の家宝となった。

②山野世良氏について

福山入封後、世良彦八を在郷のまま馬回り100石で召し抱えた。在郷のままというのは珍しいとのこと。

③成羽三村氏について

成羽の三村家に対しては家老として迎える。

時安、山野、そして成羽時代は戦に参戦することもなく、次なるステップへの英気を養った一番心安らいた時期ではなかっただろうか。